

多鯰ヶ池湖畔散策用「木道」の一部完成について

内容：「砂丘未来会議・多鯰ヶ池ワーキング」で多鯰ヶ池周辺の観光地はどうあるべきかの答申案を策定しました。

そ第一弾として多鯰ヶ池湖畔に「木道」が約60m完成しました。

観光地多鯰ヶ池に自生するスイレンが今年も薄紅色の愛らしい花が見ごろを迎えている。

是非訪れてみてください。

新聞記事：8月1日・山陰中央新聞に取り上げられました。

(週3種郵便物認可)

鳥取砂丘そば 多鯰ヶ池にぎわい戻れ

住民団体 木道設置やイベント



山陰屈指の観光スポット・鳥取砂丘の南東にある多鯰ヶ池(鳥取市福部町湯山)に、にぎわいを呼び戻そうと地元住民グループが散策道整備やイベント開催に汗を流す。今春には官民でつくる鳥取砂丘未来会議の多鯰ヶ池周辺整備基本構想にも組み込まれ、取り組みが加速しそうだ。

(岸本久留人)

鳥取市街から県道265号(旧国道9号)を通り、砂丘トンネルを抜けると、左手に砂丘があり、右手に見える池が多鯰ヶ池。面積230平方メートル。水深17・3メートル。中国地方の池では最も深いとされる。「かつては砂丘より訪れる人が多かった。未来会議多鯰ヶ池ワーキンググループ座長の飼牛明さん(73)は鳥取市福部町湯山は回顧する。鳥取砂丘はかつて多鯰ヶ池周辺まで砂丘が広がっていた。市街地から砂丘に行くには池の東側を走る旧道を使い、池は観光客でにぎわった。手こぎボートが40艘近くあるほどの盛況だったという。砂丘と多鯰ヶ池を分断する県道265号は、鳥取県に昭和天皇を招き第16回全国植樹祭が開かれた1965年に開通した。砂丘へのアクセスが良くなる半面、池に立ち寄る客は激減。管理が行き届かず、池周辺には雑木が生い茂り、県道から池が見えにくくなり、池の存在感は薄れていった。

転機は多鯰ヶ池を含む山陰海岸が世界ジオパークに認定されたこと。飼牛さんから住民有志が池の利活用を目指す任意団体を2016年に結成。20年には県道265号沿いの雑木を伐採するなど景観の保全活動を進めてきた。

県や市の財政支援も得て、公衆トイレやウッドデッキも整備。カヌーや、水面に浮かべたボードの上でヨガをする「サップヨガ」、手作りいかだのレースといったイベントも開かれるようになった。

構想では池のそばに屋根付きの休憩所を建て、桜の植樹などを行う。第1弾として、6月に池の近くを散策するための木道を60メートルにわたり設置した。今後、300メートルまで延ばすという。

飼牛さんは「観光客以外にも子どもたちの遠足や家族、市民に楽しんでもらえるようにしたい」と意気込んでいる。

鳥取市街から県道265号(旧国道9号)を通り、砂丘トンネルを抜けると、左手に砂丘があり、右手に見える池が多鯰ヶ池。面積230平方メートル。水深17・3メートル。中国地方の池では最も深いとされる。「かつては砂丘より訪れる人が多かった。未来会議多鯰ヶ池ワーキンググループ座長の飼牛明さん(73)は鳥取市福部町湯山は回顧する。鳥取砂丘はかつて多鯰ヶ池周辺まで砂丘が広がっていた。市街地から砂丘に行くには池の東側を走る旧道を使い、池は観光客でにぎわった。手こぎボートが40艘近くあるほどの盛況だったという。砂丘と多鯰ヶ池を分断する県道265号は、鳥取県に昭和天皇を招き第16回全国植樹祭が開かれた1965年に開通した。砂丘へのアクセスが良くなる半面、池に立ち寄る客は激減。管理が行き届かず、池周辺には雑木が生い茂り、県道から池が見えにくくなり、池の存在感は薄れていった。

多鯰ヶ池の近くに設置した木道と整備を進める飼牛明座長(鳥取市福部町湯山)

